

公益財団法人かめのり財団  
講演会・シンポジウム

2012年度は、王敏理事(法政大学教授)の講演会を次のとおり行いました。

開催団体(場所)	日時	対象	演題	
神奈川県立横浜翠嵐高等学校校定時制	2012年 12月19日 (水) 17:35 ~ 18:55	生徒 約80名	<p><b>「日中が共有するもの - 漢字、十二支 -」</b> 中国から伝来し、古くから共有している「漢字」は、時代を経て日本独特の形を生み出してきました。身近なところ漢字を取り入れているのが日本の特徴で、レストランの名前に中国の古典「孫悟空」や「三国志」とつけ、和菓子のお店の包装紙にも漢詩が書かれたものがあることなどを紹介。現在では、「超」に代表されるように日本で使われている言葉の意味が伝わり中国で使われています。このようにお互いに学び、相互発展していくことが、異文化を知り、理解することにつながるという話がありました。</p>	
四国高等学校国際教育生徒研究発表大会(高知)	2013年 1月16日(水) 15:10~16:10	生徒、教員 約80名	<p><b>「龍馬と共に翔る - 巳年でも異文化理解 -」</b> 講演会場となった高知県にちなみ「坂本龍馬」の「龍」と兄弟関係にある「蛇」を取り上げ、日中韓では幸福をもたらすものとしてあがめられ、共通するものがあるが、三カ国で古い時代から蛇はさまざまな形で表現され、示されてきたことを説明。「干支」についても同様であり、それぞれの国で独自性、地域性を持っているこれらの伝統・文化を大切に、言語を通じて発信していくことで、異なる地域・国の文化を知り、理解していくことが重要になるとのメッセージが贈られました。</p>	
西日本日中文化教育交流協会	2013年 2月23日(土) 14:00 ~ 15:30	一般市民 約80名	<p><b>「なぜ噛み合わないのか日本人と中国人」</b> 以心伝心が美徳とされる日本と常に白黒を明確に判断する中国といった表現方法をはじめ、日々の生活の中での両国の習慣や美意識の違いを「噛み合わない」と考えられる原因として紹介。このような違いを悪いこととして指摘し合うのではなく、両国で美徳とされることを認め合い、補完し合うことが重要となる。長い交流の歴史の中で、いつの時代でも異文化を理解することへの苦悩はあったが、それを乗り越えてきた。今の状況を相互理解の新しいステップを作る機会と捉え、お互いに発展していきたいという話がありました。</p>	